

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている、C : あまりできていない、D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取組目標など)
笑顔いっぱい 元気な子	自ら やってみよう！！	子ども達がいろいろなことに興味をもち、自分から物事に触れる姿がある	「これなあに？」と様々な物に興味をもち遊ぶ姿が増えた。季節に応じた素材、学年に合わせた遊びなどを楽しむ姿が多い。	A	A	園関係者評価委員から ・季節に応じて、また学年に合わせて、というところは小学校でもやっているところ。タイムリーに経験できるようにすることはやはり大事だと思う。 ・考える力・意味が広くとても難しいと思う。どの場面でもどう考えていくか職員で共有していくことが大事ではないか。入口を狭くすることで、先生たちも手ごたえがあるのではないかと思う。	・季節や年齢に応じた素材を用意し、子どもたちがやってみたい！と思う環境設定をしていく。その際、子どもたちが考えることができる提供の仕方を保育教諭自身も考え、実施していく ・子ども達が、“考える”ことを楽しめるように、保育教諭がどうかかわっていくか、日々の保育日誌に記録し、実践していく
		子ども達が遊びや生活の中で、様々な素材や教材に触れて、考えたり試したり「やってみよう」とするような姿がある	・やってみよう、試してみようとする姿はどの学年も増えた。「これやってみよう」とお願いする姿が多いが、「どうすればできそう？」と声をかけることでやり遂げようとする姿につながった。 ・考える力はまだまだ必要だと思う。子どもたちの目線の位置に廃材等を置き自ら作ってみたいと思える環境づくりをしたり、作ったものを生かせるようにどうしていくか考えたりしていく	B	B		
		子ども達が友達と一緒に遊ぶ中で、相手の気持ちに触れたり、気づいたりする姿がある	・友達と話をしながら遊ぶ姿、困っている子に声をかけたり、一緒にやってみようという姿が多くみられるようになった。言葉でのやりとりが多くなり、思いを伝えたり気づいてあげたりする姿が増えた。 ・相手の言葉を聞く、気持ちを知らうとする姿はまだ少ないと感じる場面もある為、保育教諭が気づかせてあげるサポートを今後も継続していく。	B	B		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取組目標など)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	「遊びのマップ」の内容を皆で定期的に共有し、0歳児から5歳児までの発達や興味・関心に合わせて遊びが用意されている	・職員会議で月案検討をすることで、各学年の遊び、子どもの姿の把握につながった。 ・遊びマップからボードへ変更しているが、ボードを見る職員が少ない。また、自分のクラスのごとでいっぱい他クラスへの関心が薄いことが課題として挙げられた。ボードを職員会議等でも活用していくなど検討していきたい	B	B	園関係者評価委員から ・子どもたちの安心感を考えてくれるだけでも長時間預ける側として、ありがたいと思う。 ・小学校では、教材と素材と分けて考えている。(例)家康の授業を行う前の準備として。まずは家康という素材について調べる。家康について特性を網羅するだけでなく、その素材を教材として、どう使うか、その研究が大事。教員はそれを教材研究として大事にしている	クラスによって、遊びの偏りを減らしていけるよう、学年ごとの話し合いを毎週行う、また毎月末、会議で行っている全学年の月案検討を継続していく 引き続き安心して過ごせるよう、早番の部屋の環境を定期的に見直していく。一人一人に合わせた丁寧な対応も継続していく 提供する前に、素材・教材研究を丁寧に行う。またクラスや、学年の担任間で教材の提供の仕方の共有も確実にやっていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の育ちや生活リズムに合わせて安定した穏やかな気持ちで園生活が送れるようにスキンシップをとり、子どもの思いに寄り添っている	・子どもが不安定になっている時など子どもの目線になって落ち着いて過ごせる時間を作っている。また、育ちや発達に応じたスキンシップや対応は常に職員同士心がけて行っている。早番、遅番時に同じ職員が保育していることで子ども達の安心感につながっている	A	A		
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもが自分から遊び出したり、「次はこうしてみたい」と発想が広がるような素材や教材が用意されている	・振り返りや遊びの中で出てきたアイディアや素材を用意し廃材BOXにいれ、子どもたちが自分で出し入れできるようにしている。「～をこうしてみたい」「～がほしい」という思いを大切に自分で考えて作ることができるように教材を用意している。 ・教材研究の捉えも職員によって違うため、保育者自身が遊びを知り、教材を提供する準備を行い、一緒に遊びこむことも大切である	B	A		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	園児が安全に行動でき、また職員間でシチュエーションごとに避難方法を判断できるように、計画的に災害・不審者訓練、交通安全指導が行われている	・様々な状況を想定して訓練したり、職員間で考えたりすることができている。交通指導を基に散歩では道の歩き方を常に伝えている。	A	A	園関係者評価委員から ・訓練は保護者も必要だと思うので、参加または見学したい	子ども自身が危険なことを考えられるように引き続き指導していく。定期的な避難訓練、不審者訓練も様々な状況を想定して計画し実施していく
3 健康管理・指導	(1)健康教育の充実	子どもが食への関心を持てるように、保護者や職員間で子どもの姿を共有し、季節の食材に触れられる取り組みを行っている	・毎月の食育の会で分掌中心に、実物を用意したり、体験したりする機会ももち、食への関心が高まった。野菜の栽培、クッキングを通し、実際に食べることで苦手だった野菜も自分からたべてみようとする姿もみられ、より”食”を身近に感じられるようになった。	A	A	園関係者評価委員から ・支援児に対する職員の情報共有は、小学校でも難しさを同じように感じている。年度始めから、短い時間で回数を多く会議を開き、該当職員の情報共有の場を設けるようにしている	食育の日の取り組みだけでなく、“食”に関することを年齢に応じて保育に取り入れてより身近なものにしていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の子どもの特性を理解し、支援方法を考え職員同士共有し、実践している	・サポートプランを作成し、担任間で共有し、同じ支援方法をとっている。ケース討議を通して、子どもの姿の共有を通して個々に対する支援の仕方考えたり子どもの姿を確認し合ったりすることができている ・支援児の発達の経過やサポートプランの内容を職員全体に共通認識出来たら良い。また、支援児担当者会議で話した内容の共有が不十分という意見が出ていた為、次年度は職員会議等で定期的に伝える機会を持つよう改善していく	B	B	園関係者評価委員から ・支援児に対する職員の情報共有は、小学校でも難しさを同じように感じている。年度始めから、短い時間で回数を多く会議を開き、該当職員の情報共有の場を設けるようにしている	クラスの担任間だけでなく、他クラスの職員にも情報共有できるように、伝達の仕方を工夫し、会議の翌日には必ず伝達する
5 組織運営	(1)組織体制の充実	分掌についてリーダーを中心に役割分担がされ、計画的に実行し振り返りが行われている	・分掌リーダーを中心に計画し、取り組んでいる。 ・分掌ごとで取り組みの差、負担差が大きい。分掌だけでなく、もっと全体を巻き込んで細かく共有したり、分掌の横のつながりができたりするよう連携をとり進めていく	B	B	園関係者評価委員から ・小・中学校でも同じように研修を行っている。職員が意欲的に取り組んでいるところ、研修に対して満足感があるところが良いと思う。	分掌の取り組み内容を、その都度会議で報告、共有する。分掌のリーダーが中心となるが、仕事の役割分担を表などを使い分かりやすく進めていく
6 研 修	(1)研修体制の充実	研修部を中心に園内研修を積み重ね、子どもが「自らやってみよう」と遊びが継続するような場や関わりについて活発に語り合いが行われている	・公開保育に参加したり、ビデオを見たりしたうえで園内研修を行い、子どもの思いを考えたり自分に置き換えたりしながら学びにつなげていくことができた。職員一人一人が意欲的に意見を出し合い、自分事として考えることで研究保育のクラスだけでなく、自身の保育を振り返る機会になった。	A	A	園関係者評価委員から ・掲示に写真を取り入れていることは文字だけよりも、良いと思う。保護者として、今年度散歩が少ないのではないかと感じる。きょうだいの上の子の時は毎週のように行っていた。	各学年、研究保育を実施し、保育の質の向上を目指す。事前研、事後研における話し合いの方法を考慮し、誰もが意見を言いやすい場を作っていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもが安全に過ごせるように、日々の清掃・整理整頓がなされ、子どもが自ら物を取り出したり片づけたりしやすい環境づくりを行ない、定期的に見直しがされている	・ほとんどのクラスが、表示等をつけわかりやすく玩具の出し入れができるよう工夫されている。クラスによって差はあるが、概ねクラスの中は片づけられている。 ・園庭や倉庫、玩具棚の整頓を定期的に行うことが難しい。今年度、見直して、子どもたちが自分で取り出しやすいようにしていったが、持続させることに課題が残る	B	B	園関係者評価委員から ・小学校と中学校の連携を意識することが多いが、幼小の連携の方が必要だと感じている。一園だけではない為、難しい面もあるが、小学校に招いたり、園を訪問するなど計画していけるよう考えたい。	子ども自身が出し入れしやすい玩具倉庫を目指して、定期的に倉庫の片付けや見直しをしていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	玄関に「遊びのマップ」やドキュメンテーションを掲示し、園で過ごす子どもの様子をその都度伝えている	・以前よりも写真を取り入れた発信が増えわかりやすくなっている。毎日のボードやドキュメンテーションを通して子どもの姿や遊びの様子、経過を伝えることができています。 ・ボードやドキュメンテーションを掲示しただけになってしまった。今後は、言葉でも伝えていくことなど伝え方を工夫していく	B	B	園関係者評価委員から ・小学校と中学校の連携を意識することが多いが、幼小の連携の方が必要だと感じている。一園だけではない為、難しい面もあるが、小学校に招いたり、園を訪問するなど計画していけるよう考えたい。	ドキュメンテーションや、日々のボードで伝えるだけでなく、直接保護者に伝えることも大事にし、参加会や面談等も計画的に実施していく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	公開保育や公開授業に参加し職員間の交流を図り、児童と園児の交流の方法検討や情報共有が行われている	・聴覚支援学校と定期的に交流したり、公開保育に多くの近隣園から職員が参加したりしてくれた。 ・小学校の公開授業に参加した。情報交換し今後の交流についても前向きになれたが、実現が難しい。学校との連携をとり子ども同士の交流を行えるようにしたい他園や小学校に行く機会が少なく感じる。もっと参観の機会を見つけたり作ったりしていきたい。	B	B	園関係者評価委員から ・地域の資源等、ぜひ小学校も共有させてほしい。 ・指標に対しては交流を継続しているのでA評価でよいのではないか	近隣園や小学校との子ども同士の交流を、年度始めに計画し、実施する
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	野菜作りや囲碁教室、デイサービス交流などを通して地域の人と関わる場が継続してある	・デイサービスは今年度から新たに交流を始めた施設と3度交流することができた。年長児中心に地域の人との交流の機会をもつことができています。囲碁教室の先生には囲碁だけでなくコマや凧揚げについても教えて頂くことができ交流が深まった ・地域の資源として何があるのかを年度始めに職員が察して知っていくことも必要。交流が一回限りにならないように継続していきたい。	B	A	園関係者評価委員から ・地域の資源等、ぜひ小学校も共有させてほしい。 ・指標に対しては交流を継続しているのでA評価でよいのではないか	今年度できたつながりは継続して実施していきたい、新たな地域の資源を職員自身が地域を知りみつめていく